伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和６年度第１回）審議結果等

○ 日時：令和６年７月26日（金）14時から

○ 場所：伊勢市役所本庁舎東館4-2会議室

○ 委員　　萩原　浩司（学識経験者：皇學館大学）
上野　早苗（市民：公募）
酒徳　慎吾（事業者等：伊勢商工会議所）
北岡　孝裕（地域住民組織：伊勢市総連合自治会）
竜田　和代（地域住民組織：伊勢市女性団体連絡協議会）
阪本　眞弓（地域住民組織：伊勢市食生活改善推進協議会）
奥田　哲也（関係行政機関：三重県南勢志摩地域活性化局環境室）
坂本　進　（関係行政機関：伊勢広域環境組合）
【欠席】
平島　円　（学識経験者：三重大学）
安井　正和（事業者等：株式会社　ぎゅーとら）
北前　尚紀（再生資源事業者：株式会社　幸伸）

事務局
大桑　和秀（環境生活部長）、林　歩（ごみ減量課長）、
出口　昌司（ごみ減量推進係主査）、佐波　聖樹（ごみ減量推進係主事）

○ 審議結果等
事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

＜報告＞　●報告第１号　令和５年度　ごみ排出量実績（速報値）について
【資料1-1、1-2】

（委員１）	ごみの量が少なくなっているのは、市民の皆さんのごみの減量に対する意識が高まっている結果であると感じる。ただし、昨年度は雨が少なかったように思うので、雨や災害の影響が少なかったことがごみの排出量の減につながったとは考えられないか？
（事務局１）	雨などがごみの排出量にどこまで影響があるかは検証できてないが、生ごみの排出量に雨が少ないことが影響していると感じている。
（事務局２）	ごみの排出量と雨の日数との関係について、データをとってないが、ごみの排出量に影響を及ぼすと考えられるので、今後は、データをとるようにしたい。

（委員２）	資源回収量のうち集団回収量が伸び悩んでいるのは、回収する団体が少なくなったということか？
（事務局１）	回収団体は減っており、その要因として高齢化がある。また、最近では市内民間業者で資源物回収が増えている影響もあると考える。
（委員３）	事業系ごみ排出量が令和 2 年度に減り、その後、横ばいとなっている。コロナ禍の影響もあり、減少したと思われる事業系ごみ排出量はコロナ規制が解除された現状においても、以前の量に戻っていないことから、企業において、コロナ禍での排出抑制が継続していると読みとれる。今後も企業において維持されれば良いと考える。
（事務局１）	事業系ごみに関する啓発を今後実施するので、企業がごみの排出に関してどういう改善や工夫がされているかの情報もつかみたい。
（委員４）	資源回収されているペットボトルについて、資源物の品目別の排出量がわかる表はあるのか？ペットボトルは、どれくらいリサイクルされているのか？
（委員５）	伊勢広域環境組合の実績では、伊勢市分で資源化に出しているペットボトルの量は令和 5 年度で 325 トン。今年からボトルｔｏボトルで処理する業者に搬入している。
（委員６）	資源回収量のうち集団回収量が減っている。高齢化により資源物の管理や整理が難しくなっているのが原因ではないか。 また、こども食堂では、災害時ではないので、食器は使い捨てでないものを使用し、ごみを出さないことを提案した。人口減少とごみ量の減少との相関性はどうなのか？ペットボトルやトレイの商品が多く、資源化するとはいえ使い慣れているので、消費者も考えながら行動すると少しずつごみが減る。市としても今後も減量の取り組みは続けていく必要がある。
（事務局１）	一人ひとりの意識が芽生えると、いろいろ取り組んでもらえる。我々も啓発をしっかり伝えていきたい。人口減によりごみが減ったとも読めるが、一人一日の平均ごみ排出量が減っているので、一人ひとりの努力もあると思う。令和 9 年度の目標が令和 6 年度より 20 グラム少ないが、いちご 1 個分くらいの量である。燃えるごみを削減するための「見せ方」も工夫していきたい。
（委員３）	市民の方の意識もだんだん変わってきたと感じられる。
（委員２）	近年、医学界でプラスチックが人体から出ていると発表され、影響はまだわからないが、生殖系にも影響する可能性があるらしい。人口減少にも関わる。そういう情報を市民が知る機会があれば、プラスチック製品の使用は減り、自然由来のものに意識が向

	くのではないか。
（委員３）	子どもたちと海岸清掃をすると、プラスチックが流れ着いている。身近なところにごみ問題があることを、清掃活動などを通して考える機会があれば、子どもも市民も意識が変わってくるのではないか。
（委員５）	ごみ総排出量の燃えるごみについては、令和 5 年度の量と令和 9 年度の目標値がほぼ一緒で、一方で資源回収量は令和９年度の方が多い。内訳で家庭系ごみの燃えるごみが令和 5 年度では 23,454 トン、令和 9 年度の目標値は約 1,500 トン減量した数字。 事業系ごみ排出量の燃えるごみは令和 5 年度では 14,440 トン、令和 9 年度の目標値が逆に 1,300 トン増えているが、その要因は？
（事務局１）	令和 2 年度からコロナ禍の影響による減少が大きく、ごみの量が激減している。このまま減少した形で維持できるのが理想だが、コロナが緩和する中で、伊勢市は観光地ということもあり、ごみが増えてくるのではないかとごみ処理基本計画改定の際に見込みを立てた。
（委員７）	資源化率が右肩下がりで推移しており、令和 5 年度の数値が令和９年度の目標値と 5 ポイント弱、乖離しているが、原因と対策は？数字は下がっているが、資源化量は減ってないのか？
（事務局１）	資源物について、民間業者の自主回収分が増えていることにより、資源化率が下がってきているのではないかと考えている。民間業者に資源化物がどれくらいの量を集まっているのか、今後検証したい。
（委員８）	資源回収量のうち集団回収量が減少しており、令和 9 年度の目標に対して乖離があるが、具体的にどこに力を入れて対応するのか？
（事務局１）	地域のコミュニティ自体が維持されないと集団回収ができないので、何かしら取り組んでもらうような工夫を考えていきたい。
（委員２）	園児と親が一緒になり資源物回収を経験すると、ムダにしないことが子どもたちの心の中に残る。幼稚園児の年長になると、雑紙の分別ができるようになり、家庭のほうでも家族が分別するようになる。資源物の集団回収が環境教育につながるということを PR するのが重要。
（委員６）	学校での資源物回収について、これまで資源物を玄関前に置いて生徒や保護者が回収していたが、実施しなくなっている。先生の負担等や労力がかかり、集団回収を実施するのが現実としては大変になっている。仕組みを変えていくことも必要ではないか。

（委員３）	高齢化問題や、学校も働き方改革でなかなか難しい部分がある。
（事務局１）	時代の変革で考え方が変わってきているので、啓発にあたっては、工夫することが必要だと感じている。

●報告第２号　令和６年度　ごみ排出状況（速報値）について
【資料 2-1、2-2】

（委員６）	プラスチック製品の分別状況はどのようになっているか？
（事務局２）	本日プラスチック類の組成調査を実施した。4%ほどがハンガーやプラ容器などの製品プラスチックだったが、ペットボトル等の不適物も混入していたので、そもそもの分別もきちんと周知していかなくてはならない。
（委員６）	分別が難しいので、プラスチック製品などの資源物をだす人がわかりやすいチラシ等を周知してもらえれば。
（事務局１）	昨年、市内全域の自治会をまわったが、様々な意見をいただいた。市民の方の声を真摯に受け止めて、丁寧に周知していきたい。
（委員６）	季節により啓発する資源物を考えたり、大まかな話ではなくポイントをしぼって分別する製品を啓発してみてはどうか。
（委員３）	一般（個人及び事業者）が排出するごみの量が昨年度と比較して増えているが、その要因は？
（事務局２）	一般（個人及び事業者）が排出するごみとは、清掃工場に直接個人及び事業者が持ってくるごみの量で、増えている要因としては、引っ越し等が多いことが考えられるが、なぜ自己搬入が多くなっているのかの要因はつかめていない。
（委員５）	一般は事業者が一般廃棄物を搬入する場合と、個人が片付けをしたりしたごみがある。
（事務局２）	人口減少で亡くなる人が増え、業者に依頼せず自力で遺品を運んでいる人が増えているのかもしれない。
（委員３）	一過性のものなのか、維持されるのであれば何かしらあると思うので、事務局で検討いただきたい。

●報告第３号　ごみ処理基本計画の進捗状況について

（委員２）	５年ほど前に水切り器のモニターをしたが、家族の人数にもよるが、じょうご型は大きすぎる。クリアファイルのような薄い素材

	のほうが、生ごみの水が切れる。また立体的なものより、平らで薄いもののほうが収納もしやすい。
（事務局１）	ワークショップで複数の水切り器の体験をしてもらったが、水切り器をご存じでない方もみえたので、使い方なども含めて啓発の方法を考えていく。
（委員６）	「ごみゼロチャレンジ」の名称について、ごみはゼロにはならない。現実的ではない言葉に感じる。「ごみ減量」にしてはどうか。そちらのほうが納得いくと思う。
（事務局１）	次回以降、名称を変更するよう検討する。
（委員６）	粗大ごみの自治会回収で集まってきたものに使えるものがあるのではないか？粗大ごみの自治会回収の際に、使えるものはごみにせず、再利用するように分別するよう自治会に案内してはどうか。粗大ごみの回収という言葉を変えることで、出す方の意識も変わるのではないか。羽毛の分別回収も羽毛として回収できるものの基準があるので、その基準の案内をしてはどうか。
（事務局１）	粗大ごみの自治会回収について、自治会に再利用品として分別してもらい市が回収しているものもある。自治会とも意見交換しながら、よりよくなるよう進めていく。
（委員２）	リサイクルプラザが地域にひとつで、市内中心部から距離があるので、あまり利用されてないのではないか。鳥羽市はリサイクルステーションに不用品を置く場所があり、そこで不用品の提供等をしている。資源拠点ステーションの一角に不用品の置き場を設けたら、もっとリユースの機会も増えると思う。人の目につく場所で不用品のやりとりができるシステムができればよいと思う。
（事務局１）	今後、研究していきたい。
（委員１）	地元自治会では粗大ごみを出す時に、再利用してもよいものには紙を貼って回収場所に持ってきてもらっている。子ども会で廃品回収をしているが、少子化で活動を維持するのがなかなか厳しい。 また、生ごみ処理機の補助金と着ぐるみ出動回数の実績は？
（事務局２）	補助金の交付件数（家庭系）は令和５年度が 85 基、令和３年度と４年度がおよそ 60 基、事業系は昨年度においては実績なしで、直近で交付したのは令和３年度である。着ぐるみの出動回数は年間 30 回程度。
（委員１）	事業系の生ごみ処理機の啓発をしてもらったらごみが減っていくので、ぜひ働きかけをお願いしたい。

（委員２）	以前に伊勢市において生ごみの堆肥化を実験的に行ったが、うまくいかなかった。座間市では農水省と連携し、不織布のバッグ型コンポストを無料配布し、堆肥にして回収したものを地域の花壇作り等に提供する取り組みがある。生ごみとして回収し、それを堆肥にするというのは場所も手間もかかる。個人がバッグ型コンポストで堆肥にしたものを集めて利用するという新しいタイプの回収方法もある。草や剪定枝だけでなく、市民が作った堆肥を活用する流れを作ってもらえるとありがたい。
（事務局１）	できた堆肥を利用される方の確保ができて、循環される。様々な家庭から集めた堆肥となると、肥料として成分が違うので難しい部分があるが、引き続き研究していく。
（委員６）	以前の市内２カ所で実施された生ごみ堆肥化の実証実験では、その後につながらなかった。作物によっては、堆肥の成分が合うものが難しいと聞いた。
（委員５）	枯草や剪定枝から堆肥を作ることはあるが、堆肥の状況も様々ある。完熟の堆肥もあるが完熟の状態にする場合は、一定の工程が必要。清掃工場としては、枯草と剪定枝は年間で 1,000 トンあり、有効利用したい。過去に商工会議所と生ごみや堆肥化の研究会を立ち上げたが、できた堆肥を処理することができず、事業化を断念したので研究課題ではある。
（委員６）	キエーロでできた土を使ってトマトやピーマンを育てたところ、たまたまかもしれないがうまく出来た。堆肥化は事業化するのではなく、自己処理だけで完結するのが望ましいのではないか。 ごみアプリは若い人は見るが、利用度などはわかるのか？
（事務局２）	すでに「さんあ～る」というアプリがあり、それを伊勢市に設定してもらったら当該地区のカレンダーが出るので、その利用者数は把握できる。設定すれば、事前に燃えるごみ等の通知が届く。啓発もスーパー等で進めていきたい。
（事務局１）	外国人に対しての周知がうまくいってなかったので、３言語を普及していきたい。情報発信は地域ごとでできるので、発信力の効果はあると思う。

●その他

（事務局２）	「さんあ～る」が８月１日から運用になるので、ご利用いただきたい。